

声なき声、呟き、ため息、独り言、
そして魂の叫び



『たびたび、独りになりにいく』本木健 / 油彩

第8回

人のアート展

創造の源泉
— 生命の多様性との出逢い —

2022年6月28日(火)～7月3日(日)

10:00～19:00 (最終日は17:00まで)

東京芸術劇場5階 [ギャラリー1・2]

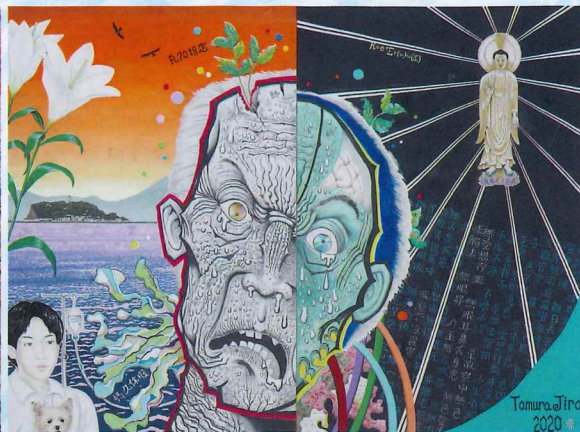
〈審査員〉鹿島 晴雄 (慶應義塾大学医学部客員教授)・齋藤 章二 (斎藤病院理事長・院長)・倉林 靖 (美術評論家)・田部井 月四 (日本画家)・安彦 講平 (〈造形教室〉主宰)

主催：一般社団法人 東京精神科病院協会 共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

後援：東京都、東京都立中部総合精神保健福祉センター、東京都立多摩総合精神保健福祉センター、東京都立精神保健福祉センター、東京都立松沢病院、社会福祉法人NHK厚生文化事業団



『時計台のある街』 軍鶏



『自分にその時が訪れる瞬間』 或馬 次郎



『旅立ち』 大谷 浩平



『ころも』 市川 彩子



『髪埋め』 半田 一也

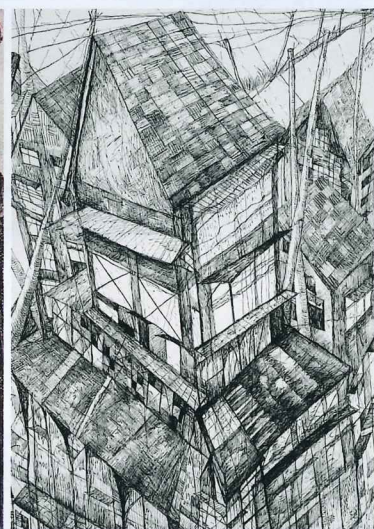


『訪問者』 久松 達生

第8回 人のアート展 創造の源泉 — 生命の多様性との出会い —



『ニールヤング魂シリーズ』 奥村 欣央



『少女だった頃にあった建物』 石倉 真理



『光、射って忘れてはいけない空紅色と生きる者と黒』 森 隆敏

■ 公募作品展示 [ギャラリー1]

協会会員64病院から公募し、一作一作、真摯に向き合い、心ゆさぶられ、熱意を込めて審査。「声なき声、眩き、ため息、独り言、そして魂の叫び」を表現した、迫力のある多様な世界を展示します。観覧無料。

■ 特集展示「安彦講平」[ギャラリー2] — 精神科病院内での芸術活動の軌跡 —

1968年以来、東京足立病院、丘の上病院、平川病院など、いくつもの精神科医療施設で「自由な自己表現の場」を試行し続けてきた安彦講平氏の半世紀以上にわたる足跡を紹介します。

■ スケジュール

6/30 (木) 14:00 ~ ワークショップ
7/1 (金) 14:00 ~ ワークショップ

■ 座談会

出品者や審査員、ゲストを交え、表現活動やアートの持つ力、意味、可能性について語り合います。参加自由。

■ ギャラリートーク

「病む」とは何か、「表現」とは何か、「生きる」とは何か。実作品を前に作者や関係者の方々に、作品解説や制作の背景について語っていただきます。参加自由。

■ ワークショップ

ステンドグラス作家の野口均氏によるワークショップ。ステンドグラス用の綺麗なガラスで、アクセサリーや写真立てなどの小品を作ります。参加費、材料費無料。作ったものはお持ち帰りができます。

新型コロナウイルスの感染状況によっては座談会、ギャラリートーク、ワークショップが中止になる場合があります。また展覧会そのものが中止になる場合もあります。

東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
TEL: 03-5391-2111
<アクセス> JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より徒歩2分、池袋駅地下通路の2b出口と直結しています。



◎お問い合わせ先 一般社団法人 東京精神科病院協会
〒183-0055 東京都府中市府中町1-23-3 TEL: 042-352-0541 / FAX: 042-334-1434